

# 2023年度 一般財団法人たんぽぽの家 事業報告

## エイブル・アート・プロジェクト

### アートプロジェクト企画運営

#### 1) 知財学習推進プロジェクト

今年度は、おもに厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」の全国各地の支援センターや日本知財学会の知財教育分科会と連携しながら、オンラインや対面にて知財レクチャーやゲームワークショップに取り組んだ。また、霞が関で子ども対象の知財ゲームワークショップを行ったり、奈良県の美術科教員向けの知財研修を行ったりすることで、児童、生徒の知財学習のきっかけをつくった。教育知財学習推進のためのゲームづくりのノウハウが評価され、奈良工業高等専門学校と連携し、技術者倫理を学ぶゲーム型教材の開発にも携わった。

##### ①著作権の保護：著作権の基礎知識と商品化にあたって気を付けること

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画 人材育成講座のオンデマンド講座の講師に招聘され、オンラインレクチャーを配信した。

・日時 4月1日(土)～2024年2月29日(木)

##### ②群馬県障害者芸術文化活動支援センター 令和5年度第1回人材育成事業

表現を「守って広げる」ために知的財産権について学ぶ

群馬県にもあたらしく障害者芸術文化活動支援センターが設置されたことをきっかけに企画された研修会。著作権、値段のつけ方、販売方法、商品化する上での配慮、収益の分配など身近な事例から知的財産権の守り方についてアドバイスした。

・日時 6月20日(火)

・会場 群馬県青少年会館 2F 大会議室

##### ③常滑知財研修

常滑市社協グループは、B型事業所以外にも、生活介護や地域支援センターもやっており、社協グループ全体として研修を受けたいという要望を受け、受注中心の仕事ではないあたらしい仕事の発信につなげるべく知財研修を行った。

・日時 6月28日(水)

・会場 とこなめ市民交流センター

#### ④愛知淑徳大学ゲスト講義

鈴木恵美弁護士担当の必修科目「知的財産権」のゲスト講師に招聘され、同大学創造表現学部の1年生を前に、たんぼぼの家の活動と知財学習推進プロジェクトについて講義を行った。

- ・日時 6月28日(水) 第4限と第5限
- ・会場 愛知淑徳大学 長久手キャンパス

#### ⑤令和5年度奈良県高等学校美術・工芸教育研究会及び

##### 奈良県高等学校文化連盟美術・工芸部会による教員研修

美術・工芸の授業や部活動に関わる教員の「著作権の指導」に関する認識を確認し、今後の授業や美術部大会運営等に活かすための研修会で講話を担当した。その後も継続的に情報交換等を行い、美術・工芸に関わる教員や生徒たちの資質向上をめざした。

- ・日時 6月29日(木)
- ・会場 県立畷傍高等学校 大会議室

#### ⑥東大阪社会福祉事業団 東大阪市立障害児者支援センターレビラ 知財研修

事業団全体で有志をつのり、医療系のスタッフもまじえながら、著作権の基礎知識に関するレクチャーとカードゲーム「知財でポン！」のゲームワークショップを行った。

- ・日時 7月13日(木)
- ・会場 東大阪社会福祉事業団 会議室

#### ⑦令和5年度文部科学省こども霞が関見学デー「カードゲームで著作権を学ぼう！」

霞が関の省庁がいっせいに夏休み中のこどもに向けて庁舎を開放する「こども霞が関見学デー」において文部科学省の文化庁著作権課の担当ブースで、カードゲーム「知財でポン！」のワークショップを行った。

- ・日時 8月2日(水) 3日(木)
- ・会場 旧文部省庁舎 6階 第2講堂

#### ⑧まなび舎ら・ら・ら×こうふくでミーティング vol.5 コラボ企画 知財について学び合う研究会

令和3年～4年にかけて山形県が実施した工福連携事業(こうふくで山形)では、福祉・工業・デザイン等の協働やネットワーク化を試みてきた。山形県内でも福祉事業所の絵画などを二次使用する取り組みや相談が増えていることから、権利を守りながら表現を社会に広げていくために、知的財産権について学び合う勉強会に招かれ、講師をつとめた。

- ・日時 9月12日(火)
- ・会場 山形県工業技術センター講堂

⑨「知的財産権」を学ぶゲームワークショップ～「知財でポン！」の体験～

昨年度に引き続き、岩手県障がい者芸術活動支援センター かねあると主催の「創作活動に関する権利保護研修会」の講師に招聘され、オンラインによるゲームワークショップを行った。

・日時 9月28日(木)

⑩ビッグアイ対話型セミナー「知財および契約についてお互い話し合おう」

知財や契約にまつわる質疑応答を担当した。大阪府下の事業所のスタッフが、それぞれ話し合いたいテーマを持ち寄り、各事業所ごとでどのようなことをしているのか、情報共有できる場として機能した。

・日時 12月22日(金)

・会場 社会福祉法人ふたかみ福祉会ハピパール カフェ

⑪日本知財学会第76回定例研究会(知財教育分科会 第70回知財教育研究会)

「知的財産権学習カードゲーム『ちょいワルクリエイターズ』」

知財の専門家である知財学会の学会員を対象に「ちょいワルクリエイターズ」のゲームワークショップを行った。福祉の分野での知財学習推進の意義を理解していただけた。

・日時 2024年2月17日(土)

・会場 たんぽぽの家アートセンターHANA (Zoomによるオンラインとのハイブリッド開催)

⑫障害とアートの相談室オンライントークシリーズ「アートのお悩み相談室ーみなさんどうされています?」

第4回「知財を考えるーアートにまつわる著作権」

厚労省事業。著作権の基礎知識を学ぶとともに、参加者から寄せられた著作権にまつわる悩みにも回答して、不安や心配を解きほぐすオンラインレクチャーを行った。

・日時 2024年3月7日(木)

## 2) Art for Well-being ～心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携～

病気や事故、加齢や障害の重度化など、心身がどのような状態に変化しても、文化芸術活動を続けたい人が続けることができるように、テクノロジーを活用することの敷居を下げ、創作を楽しむことや新しい表現に挑戦することを継続できる社会をつくる。さらには、テクノロジーとともに共創、発表、鑑賞、販売の機会をひろげる。そのために、調査と発信、先進事例づくり、技術力のある人たちとの社会連携を促進する。

文化庁委託事業 「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

※事業運営協力：社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job！センター香芝

① 障害のある人とテクノロジーを活用した創作活動、表現活動、鑑賞方法、販売方法の開発

新しい創作活動、表現活動、鑑賞方法、販売方法をつくることを目的に実践的な4つの取り組みを実施。

### 「音との新たな出会いを生み出す AI」

AI プラグイン「Neutone」を用い、身近な音から音楽作品をつくりだすワークショップを開発。

- ・監修者 徳井直生（株式会社 Qosmo 代表、株式会社 Neutone 代表）

### 「WAVE: なみのダンスとMR」

現実世界と仮想世界を融合させた世界のなかで、波の動きを通して感覚を共有するダンスパフォーマンス。

- ・出演 佐久間新、  
たんぽぽの家 メンバー（大西照彦、河口彰吾、河野望、清水要一、下津圭太郎、たーやん、中本吉彦、富太郎、畑中栄子、本田律子、水田篤紀、前田考美、松田陽子、山口広子）  
たんぽぽの家 スタッフ（佐藤拓道、林みどり）ほか
- ・監修 緒方壽人（デザインエンジニア、Takram ディレクター）
- ・音楽 松井敬治（ECHO AND CLOUD STUDIO）
- ・映像 les contes

### 「とけていくテクノロジーの縁結び」

ALS の体奏家、ジャワ舞踊家、踊る手しごと屋、インタラクション研究者のコレクティブ。

- ・出演 新井英夫、佐久間新、板坂記世子、寛康明
- ・映像 丸尾隆一
- ・協力 小日山拓也

### 「Good Job! Digital Factory」

デジタル上の福祉の実現をめざして新しい仕事・文化を一緒につくる NFT プロジェクト

- ・運営主体 社会福祉法人わたぼうしの会 GoodJob!センター香芝
- ・企画・協力 株式会社日本総合研究所、一般財団法人たんぽぽの家
- ・NFT 担当 TART K.K.
- ・アドバイザー (株) YUNOKI ACCOUNTING PARTNERS
- ・Art Director CHACO

## ② 障害のある人とテクノロジーを活用した創作・表現活動の普及

障害のある人やその支援者が技術にアクセスしやすくすることと、またメディアアーティストやエンジニアとの連携をひろげることを目的に、学習会や体験会、展覧会やシンポジウムを実施した。

- ・学習会／体験会 NFT、ブロックチェーン、メタバース、BodySharingなどをテーマに17回開催
- ・展覧会 2024年3月15日（金）～20日（水・祝）@東京 CCBT
- ・シンポジウム ①「NFT×福祉の可能性」 2024年3月15日（金）  
②「表現とケアとテクノロジーのいま」 2024年3月16日（土）

### 3) ろうきんプロジェクト 2023

#### エイブル・アートSDGsプロジェクト

「LIFE IS ART 生きることは表現すること」をテーマに、年齢を重ねてもアートをとおして豊かに生きている事例を紹介した。当日は京都の「50歳からのハローシアター」による、自分の手をテーマにした演劇、大阪の「紙芝居むすび」による、思わず笑顔になるオリジナル紙芝居の上演など、それぞれの世界観を楽しみながら、どんな状況になっても人生を楽しむこと、その方法として表現活動があることを語り合った。

- ・主催 近畿労働金庫
- ・会期 11月18日(土)

#### フォーラム「高齢化と表現を考える」

年齢を重ねることで変化する心身や環境。それぞれに向き合いながら人生をよりよく生きるためにはどんな方法や考え方を学ぶフォーラムを実施した。「紙芝居劇むすび」「50歳からのハローシアター」の主宰者を招き、ミニ公演も交えながら議論を深めた。

- ・登壇者 細見佳代(50歳からのハローシアター主宰)、石橋友美(紙芝居劇むすびマネージャー)
- ・舞台発表 50歳からのハローシアター、紙芝居劇むすび
- ・参加者 32名

#### 展覧会「ヒューマンレガシー」

高齢になっても、アートをとおして豊かに人生を過ごしている、障がいのあるアーティストをご紹介した。上野和子さんは脳性麻痺で車椅子のアーティストで、足に筆をつけて描くスタイルで動物や風景を描く。濱中徹さんは繊細な線描に優しい色合いを加えた色鉛筆画を制作。高田さんはカラフルなサインペンを使い、ユニークなキャラクターたちを描いている。それぞれのペースで描かれる作品に、来場者も真剣なまなざしで鑑賞をした。

- ・出展者 上野和子(たんぼぼの家アートセンター-HANA)、濱中徹、高田千恵子(アトリエ創佳舎)
- ・参加者 35名

#### 特設 web ページ

本事業実施にあたり、特設 web ページを開設した。活動を広報するとともに、今回のプロジェクトの訪問レポートや、オンライン上のギャラリーより、関連する作家の作品を伝えた。

URL <https://ableartsdgs.tanpoponoye.org/>

- ・開設期間 11月3日(金・祝)~24日(金)
- ・視聴回数 3,877 ビュー

#### ストア「GOOD JOB STORE」

11月18日のワークショップ、フォーラムにあわせ、障害のある人たちの製品を販売するストアを会場内に

オープンした。

- ・運営協力 社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job！センター香芝

#### 4) 奈良県内でのアートプロジェクトの実施

奈良県内と全国の障害のある人のアートを通じて、地域の芸術文化の育成と文化力を高め、県内外に広く発信することを目的としている。

今年度は、「プライベート美術館」「ビッグ幡 in 東大寺」「ビッグ幡 in 薬師寺」の3つの事業を実施。公募プログラムとして定着してきた企画を深め、周知することを目指して継続している。

(主催：奈良県みんなでののしむ大芸術祭実行委員会／奈良県)

##### ① プライベート美術館

奈良県内の障害のある人のアートを、まちなかの店舗や社寺などで楽しむ「プライベート美術館」を実施した。今回は初めて信用金庫での展示もあり、直接会場で作品を選んでいった。今年度は、新規店舗が6店舗あった。中でもユニークだったのは、きたまちの製靴店で「作者さんといろいろお話できて、とても楽しかった。次回もぜひ参加したい」と、話していた。

- ・開催期間 10月21日(土)～11月5日(日)
- ・開催場所 近鉄奈良駅周辺の店舗や、奈良県内の社寺や町家など
- ・応募作品数 473点(前回比：88.6%)
- ・応募者数 302名(前回比：105.6% 合作者の人数もカウント内、個人作家22人)
- ・会場数 79ヶ所(前回比：103.9%)
- ・展示作品数 320点(前回比：124.0% 応募作品の展示率：67.7%)
- ・来場者数 3,428名(前回比：19%)

(前年度参加の、なら歴史芸術文化村 情報発信棟と奈良名産レストラン&CAFE まるかつの2ヶ所の参加がなかったため、前年度より15,000人程度の来場者減)

##### ② ビッグ幡 in 薬師寺

東塔の落慶法要にあわせ、今年度初めて開催した。2022年度に実施した「ビッグ幡 in 東大寺」に採用された64作品の中から、薬師寺のデザインとして使用する48作品を、奈良県みんなでののしむ大芸術祭実行委員会と協議の上決定した。幡は8本製作した。

- ・開催期間 9月8日(金)～11月30日(木)
- ・開催場所 薬師寺金堂、食堂前
- ・候補作品数 64点(県内：26点 県外：38点)
- ・デザイン使用作品数 48点(県内：19点 県外：29点)
- ・来場者数 125,900人

### ③ビッグ幡 in 東大寺

「花鳥風月」をテーマに、全国より集まった公募作品から 64 作品を 8 本の幡にデザインし、東大寺大仏殿前に掲揚した。

初日の 11 月 3 日（金・祝）は、平城京天平行列「東大寺参詣」がおこなわれており、東大寺の参道に華やかな衣装をまとったみなさんの行列と、ビッグ幡の鮮やかさが相まって、とても荘厳な空気が溢れていた。

- ・開催期間 11 月 3 日（金・祝）～12 日（日）
- ・開催場所 東大寺大仏殿前
- ・応募作品数 557 点（前回比：87.9%） 県内：239 点（前回比：88.8%） 県外：318 点（前回比：87.1%）
- ・デザイン使用作品数 64 点 県内：26 点（前回比：100%） 県外：38 点（前回比：100%）
- ・来場者数 145,230 人

### 5) 可児市文化創造センター「エイブルアート」展企画運営

岐阜県可児市での障害者アート展覧会。障害のある人が描く動物をテーマに、絵画作品をテーマに作品展示をした。HANA メンバーの中村真由美さんによる公開制作や、昨年度より岐阜県の障害者芸術文化活動普及支援事業のセンター「TASC ぎふ」が協力として参加、現地でオープンアトリエを実施するなど、昨年度にひきつづき地元活動団体と連携をした取り組みもおこなった。

- ・催名 「エイブル・アート展 動物大図鑑」
- ・会期 7 月 15 日（土）～23 日（日）
- ・会場 可児市文化創造センター（ala）美術ロフト

※事業運営協力 社会福祉法人わたぼうしの会 たんぽぽの家アートセンター-HANA

### 6) かねでんコラボ・アート 特別協力

関西で 23 年にわたり開催されている障害者アート公募展に協力した。作品公募にあたり、広報や近年意識が高まっている著作権保護の観点からアドバイスをおこなっている。今回は初めて 18 歳以下の応募に特化した「U-18 部門」を設置。特別支援学校や自宅で制作をしている個人の応募を促した。また、今年の入賞作品展は大阪グランフロント・ナレッジキャピタルにて実施。多くの来場者が作品を鑑賞した。

- ・会期 2024 年 2 月 22 日（金）～28 日（水）
- ・会場 グランフロント大阪 北館 1 階 ナレッジプラザ

### 7) おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展「扉をあける」の協力

大分県にて、たんぽぽの家および Good Job！センター香芝の取り組みを伝える大規模な展覧会を実施した。

会期中にはレクチャーやワークショップなど、たんぼぼや Good Job! の活動を紹介する機会をつくった。

- ・催名 「扉をあける」
- ・会期 7月8日(水)～18日(土)
- ・会場 大分県立美術館(OPAM)1階 アトリウム

※事業運営協力：社会福祉法人わたぼうしの会たんぼぼの家アートセンターHANA、Good Job! センター香芝

## 8) Good Job! プロジェクト

### 1) ニュートラの学校／福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成と仕組みづくり

福祉×伝統工芸の活動に取り組む人材の育成と育成の仕組みを発信・共有した。伝統工芸等を扱うミュージアム、芸術系の大学・福祉施設などが、地域の中でつながり関わり合う機会をつくった。伝統的なものづくりを通して、障害のある人だけでなく誰もがものづくりの楽しみにふれる環境をつくることを目指して各企画を展開した。

文化庁委託事業「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

※事業運営協力：社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job! センター香芝

#### ①ニュートラの学校実行委員会

ニュートラの学校<実践編>を開校する周辺地域で活動する、ミュージアム職員やデザイナー、行政職員や福祉施設職員で実行委員会を構成し、各々の立場が抱える地域の現状や課題を共有し合いながら、地域の特色を生かした学校のプログラム組み立てた。また、ニュートラの学校<実践編>の他地域も含めた発展の可能性についても議論した。

##### ・実行委員

- 浅野翔(デザインリサーチャー)
- 井上愛(NPO 法人 motif 代表)
- 岩城鮎美(多治見市美濃焼ミュージアム学芸員)
- 佐藤一信(愛知県陶芸美術館館長)
- 高橋孝治(デザイナー)
- 水上明彦(さふらん生活園園長)

##### ・実行委員会日程

8月2日(水)、12月10日(日)17日(日)、2024年1月18日(木)

#### ②ニュートラの学校 [入門編]

ニュートラの活動を普及するためのセミナーを2地域で開催した。事例報告や講義を通してこれからのものづくりに必要な視点を学んだ。



- ・ニュートラの学校入門編 in 佐賀  
日時 11月11日(土)  
会場 SAGA CHIKA/佐賀県庁地下ラウンジ  
講師 前川雄一・前川亜希子 (HUMORABO)  
田中淳・伊藤友紀 (tuiu Co.,Ltd.)  
北島敬明 (PERHAPS\_design)  
原田祐馬 (UMA/design farm)

- ・ニュートラの学校入門編 in 新潟  
日時 11月30日(木)  
会場 新潟市美術館 講堂  
講師 迫一成 (hickory03travelers)  
安部剛 (Good Job!センター香芝)  
高野賢二 (クラフト工房 La Mano)

### ③ニュートラの学校<実践編>

実行委員会での議論をもとにプログラムを組み立て、愛知県にて開校した。地域でのものづくりを新たな視点で捉え直すことができるワークショップや、講座などを実施した。参加者はこれらのプログラムを通して、様々な背景をもつ人がものづくりの楽しさにふれることのできるワークショップ等の企画を作成、発表した。企画の作成にあたっては実行委員からのアドバイスを受ける時間も設けた。

#### ▶フィールドワーク&レクチャー

- ・日程 11月18日(土) 19日(日)
- ・場所 愛知県名古屋市有松地域
- ・コーディネート 浅野翔 (デザインリサーチャー)

#### ▶相談会 (オンライン)

- ・日程 11月28日(火) 12月6日(水)

#### ▶企画発表&検討会 (オンライン)

- ・日時 12月10日(日) 17日(日)
- ・プレトーク講師 磯村司 (INAX ライブミュージアム スタッフ)
- ・アドバイザー 浅野翔 (デザインリサーチャー)  
井上愛 (NPO 法人 motif 代表)  
岩城鮎美 (多治見市美濃焼ミュージアム学芸員)  
佐藤一信 (愛知県陶芸美術館館長)

高橋孝治（デザイナー）

水上明彦（さふらん生活園園長）

▶公開企画発表会

・日時 2024年1月14日（日）

・会場 FabCafe Nagoya

④ラーニングプログラム・アウトリーチプログラムの実施

伝統工芸や地域でのものづくりに関する教育普及に関心のあるミュージアム職員と共に、誰でも学べるラーニングプログラムを開発・実施・検証した。また、日常的にミュージアム等に行くことが難しい状況にある人たちにむけて、伝統工芸等を扱うミュージアムと連携し、アウトリーチプログラムを行った。

・CLAY WORKS 原土から砕いて染める：美濃地方の土をあじわい、オリジナルの陶土バッグをつくろう！

日程 7月17日（月・祝）

会場 多治見市美濃焼ミュージアム

・綿繰り機と糸車をつかって河内木綿をつむごう！

日程 2024年3月3日（日）

会場 大東市立歴史民俗資料館

・ニュートラ トーク「世界と日本 玩具の魅力」

日程 2024年3月11日（月）

会場 Good Job! センター香芝

講師 尾崎織女（日本玩具博物館学芸員）

・TSURUMI こどもホスピス「meet up」

重度の障害のある子どもと家族向けのイベントにて、京こまづくりとおりんの体験ワークショップを実施した。

日時 2024年3月17日（日） 13:30～16:00

会場 TUSURMI こどもホスピス内

⑤エクステンジブプログラム

京都市立芸術大学美術研究科と連携した。たんぼぼの家や Good Job! センター香芝のメンバーと、京都市立芸術大学の大学院生が互いの創作現場を行き来し、「たたく」という行為をひとつのテーマにし交流した。

協力：森野彰人（京都市立芸術大学教授／陶磁器）、安藤隆一郎（京都市立芸術大学准教授／染織）

- ・ワークショップ（大学院の授業特殊演習の枠内で実施）

日程 10月12日（木） 10月31日（火） 11月9日（木） 12月7日（木） 12月21日（木）  
2024年1月25日（木）

- ・報告会「ニュートラの学校 エクスチェンジ編報告会 ～素材と身体と行為からものづくりを考える～  
障害のある人×京都市立芸術大学の工芸系学生＝？」

日時 2024年3月8日（金）

会場 FabCafe Kyoto

## ⑥海外発信・交流

5月から開幕する「ベネチア・ビエンナーレ国際建築展」において、「NEW TRADITIONAL」の取り組みや製品を紹介した。

## ⑦ニュートラの学校教材の作成

本事業の実施にあたり、参加者・関係者の理解促進を目的に作成した。

## ⑧ウェブサイト等による発信

各企画のレポートをnoteなどで発信した。

# 教育普及・人材育成

## 1) 福祉をかえる「アート化」セミナー

4年ぶりの対面開催を実施した。2日間の開催で、初日はアクセシビリティをテーマに創作、鑑賞などの場面で多様な人たちが関われるアートのあり方について、事例を交えて紹介した。また、たんぽぽの家で取り組みはじめたNFTアートなど、デジタルでのものづくりや流通について報告し、近年のアートとものづくりのアプローチのあり方を語り合った。翌日は分科会に分かれ、創作環境のつくりかたや身体表現への取り組み、福祉施設と地域の関わりかたなどについて、全国から実践者を招き実施。初日の交流会も含め、講師と参加者、あるいは参加者同士が交流をしながら学び合う機会となった。また、たんぽぽのスタッフ全体が企画に参加をするなど、職員研修の一環にもなった。

・開催日 2024年1月27日（土）28日（日）

・会場 たんぽぽの家・アートセンターHANA

## 調査研究・基盤整理

### 1) 障害者芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省）

#### 障害とアートの相談室

今年度は近畿2府4県すべてに支援センターが設置された。今年度新規設置された奈良県へは、セミナーや見学会の内容の提案や集客などで実施のバックアップをした。例年実施している舞台「鹿の劇場」は京都で、オープンアトリエはまち歩きや写真表現を取り入れるなど、地域性や内容を広げて実施した。

（助成：令和5年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業）

#### おもな事業

##### ①奈良県障害者芸術文化活動に関する研修&相談会の実施

目的 活動がはじまったばかりの奈良県支援センターのバックアップをおこない、プログラム立案から運営サポートをすることで、奈良県で障害者の芸術文化活動支援をしている人たちと学び合う機会をつくる。

内容 ・レクチャーの実施 奈良県障害者作品展の会期中に、県内でアート活動を展開する団体のレクチャーを開催。  
・見学会&相談会の実施 県内2団体へ実際に見学に行き、活動の実際や環境整備などについて学び合う機会を作った。その後相談会も実施し、現場職員の悩みなども聞き取りをした

日時 12月3日（土） 2024年1月17日（水）

対象者 奈良県内の障害のある人のアート活動に関わる人、奈良県障害者作品展出展団体・個人など（各回10名程度）

##### ②福祉をかえる「アート化」セミナーにおける「障害とアートのなんでも相談会 関西風」の実施

内容 近畿ブロック支援センターの情報発信、連携の強化をめざし、当法人の「福祉をかえる『アート化』セミナー」の一プログラムとしてアートの相談会を実施。各支援センターの知見を生かしながら、ブロック全体の活動発信をおこなった。

日時 2024年1月28日（日）

場所 たんぽぽの家

対象者 全国の障害のある人のアート活動に関わる人、セミナー参加者

##### ③障害とアートの研究会の実施

目的 研究会を通して交流し自分の実践を深めていくこと、そして実践をかたちにして伝えていくことを学ぶ。

テーマ 重度の障害のある人にとって、また高齢化により障害の重度化が進む障害のある人やその周辺でケアに携わる人にとっての表現活動やアート活動

内容 昨年度より、岡山大学でESD研究（持続可能な開発のための教育）に取り組む柴川弘子さんを協働のリサーチャーに迎え、今年度も継続した。オンラインで4回にわたって研究会を実施。研究会のメンバーが自分の感心のあるテーマを発表しあう会やライティングについて学ぶ会も実施。ZINE（非営利で発行する自主的な出版物）として発表する。

日時 ①12月6日（水） ②12月20日（水） ③2024年1月17日（水） ④2024年2月7日（水）

場所 オンラインにて発信

対象者 障害とアートの分野での実践において関心のある人

#### ④障害のある人もない人も参加できるアートスペース オープンアトリエ

目的 ①企業と連携した場づくりの可能性の追求

②アートサポーターの育成

③パフォーマンスに気軽に組み入れるワークショップの開発、の3点に目標を定めて実施

内容 リコージャパン(株) 奈良LA 営業所との協働のもと、写真家の天野憲一さんを講師にお招きし、奈良の風景をとらえ直す写真ワークショップ「世間遺産」を実施した。

日時 12月16日（土）

場所 BONCHI（奈良市橋本町3-1）および近鉄奈良駅周辺

対象者 障害のあるないを問わない、創作活動の参加に関心のある人

参加者数 アンケートなどの成果：一般参加 20名／リコージャパン社員8名

参加者アンケートの回答数12。5段階評価中、5が11名（92%）、4が1名（8%）

#### オンライントークシリーズ

たんぽぽの家に寄せられる、障害のある人のアートのサポートに関する悩み事のうち、特に話題に上がる4つのキーワードに関し、それぞれゲストを招いたオンライントークイベントを2月末～3月上旬に実施。ほぼ全回が満員となるほどの盛況だった。

・日時 2024年2月28日（水）29日（木）、3月6日（水）7日（木）

・場所 オンライン

・対象者 特に障害のある人のアートサポートに関心のある人、障害のある作家

#### 影絵パフォーマンスづくりワークショップ&公演

たんぽぽの家アートセンターHANAのスタッフで俳優の佐藤拓道さんとの協働により、特別な専門性や道具、装置が無くても気軽に組み入れる影絵パフォーマンスづくりワークショップ&ミニ公演を3月末に実施した。

・日時 2024年3月30日（土）31日（日）

・場所 たんぽぽの家・Theater POPO

・対象者 パフォーマンス活動に関心のある施設職員など、障害当事者

## 鹿の劇場 2024 「音と言葉がめぐるたび」

**目的** 関西を拠点に活動している団体やアーティストが、これまでになかった組み合わせや出会いによって関西のパフォーミングアーツの表現の広がりを促進。これまであまり出会うことのなかった人や団体同士が出会うことで、各団体の表現の幅が広がる契機になり、広域センターとしても関西における障害のある人のパフォーミングアーツを多くの人に発信することに寄与した。

**内容** 以下の演目を上演した。

①アゴラ太鼓(奈良)×ンコシアフリカ(大阪)

和太鼓と、ジャンベ等による打楽器による共演。

②武内美津子(兵庫)×志人(京都)

見えること/見えないこと、聞こえること/聞こえないこと、をテーマに対話を重ねて創作した詩をパフォーマンスとして上演した。

**日時** 2024年2月24日(土)

**場所** ヒューリックホール京都

**対象者** パフォーミングアーツに関心のある人、障害のある人との舞台表現に関心のある人等

## レクチャー&ワークショップ

### 「障害のある人との身体表現から創造的な福祉の現場をつくるヒントを学ぶ」

**目的** 身体表現活動を通して障害のある人と関わる際の関わり方をとらえ直すことをめざした。

**内容** 障害のある人もない人も参加する「じゆう劇場」の副芸術監督齊藤頼陽さん、俳優の井谷優太さん、俳優の父親井谷憲人さん(マネジメントを担当)に活動についてお話いただいた。後半のワークショップでは、演劇的な手法を取り入れながらさまざまな身体的特性をもつ人どうしてコミュニケーションした

**日時** 2024年3月20日(水・祝)

**場所** 高槻城公園芸術文化劇場 中スタジオ4

## 海外との連携

2023年度は、海外からの見学や交流、展覧会などへの参加や渡航をともなう交流などをおこなった。

### ①「好久不見！久しぶり！香港・日本合同作品展」

国際的に活躍する香港の i-dArt、日本のやまなみ工房、たんぽぽの家で活動する障害のある人たちの絵画作品を紹介した。「久しぶり」をテーマに、旅や人との出会いをテーマに描かれた作品をあつめ、2022年に香港各地で展示した作品が大阪に巡回。人の交流が難しい時期からアートをとおしてお互いの国を行き来し、文化をこえた交流を生み出した。

- ・連携団体 i-dART (香港)
- ・日時 3月～4月
- ・場所 堂島リバーフォーラム ホワイエ

②国際フォーラム「知的・発達障害のある人が表現活動にアクセスすること：インクルーシブアートの実践から学ぶ」&展覧会「TAKE CARE!」協力

「美術館の作品を、知的・発達障害のある人にわかりやすく説明するには？」がテーマのワークショップ&フォーラムに参加。ワークショップでは障害のある当事者と美術館の作品を実際に鑑賞し、話し合いながら考える機会となった。フォーラムではイギリス、台湾の美術館や博物館、行政機関関係者、アーティストとしてインクルーシブアートの実践に関わる人たちと交流をした。

Good Job! センター香芝の Good Dog をテーマにした展覧会「TAKE CARE!」(主催:Sandwiches Studio)にも参加。香港と台湾のふたつの施設で製作したオリジナル Good Job! が展示された。

- ・連携団体 Sandwiches Studio (台湾)、国立台湾美術館 (台湾)
- ・日時 12月14日(木)～16日(土)
- ・場所 国立台湾美術館ほか

③ヴェネチアビエンナーレ国際建築展への参加

2年に一回、イタリアのヴェネチアで開催されるヴェネチアビエンナーレ。国際建築展の日本館のキュレーターに、Good Job! センターやプロジェクトで連携していた建築家、デザイナー、編集者が選ばれた。「愛される建築」をテーマに Good Job! からも、張り子のやシルクスクリーン、木工のワークショップを実施。地元の親子などの参加者と交流を深めた。

その後イタリア各地を巡り、イタリアのアートやデザイン、刑務所での演劇プログラム、1ソーシャルファームなどの取り組み、福祉や公共と文化の関係、建築と地域やケアなどの関係について学んだ。

- ・連携団体 o+h、UMA/design farm/MUESUM ほか
- ・場所 ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 日本館 (イタリア) ほか
- ・日時 9月12日(火)～25日(月)

④パースフェスティバル「A Rising in the EAST」への参加

西オーストラリア・パースで最大のアートフェスティバル「パース・フェスティバル」に参加した。たんぽぽの家からは障害のある人の手しごとや Good Job! センターと連携している NEW TRADITIONAL プロジェクトによって生まれたプロダクトを中心に、やまなみ工房からはアートワークを紹介。招聘元の DADAA は地元フリーマントルで障害のある人のアート活動を支える団体で、展覧会中に Good Job! のほりこのワークショップを実施するなど、異文化のものづくりの交流をおこなった。

- ・連携団体 DADAA、やまなみ工房
- ・日時 2024年2月7日(水)～15日(木)
- ・場所 DADAA

# ケアする人のケアプロジェクト

「ケアする人が心身ともに健康であってはお互いに他者を気づかう支え合いの社会が実現できる」との考えから、1999年に「ケアする人のケア・サポートシステム研究委員会」を立ち上げ、調査研究に取り組み、2005年から住友生命福祉文化財団と協働で、主にケアする家族を支える取り組みとして、全国各地でセミナーを開催してきた。

## 住友生命福祉文化財団事業

### 1) ケアする人のケアセミナー in 鎌倉

「ケアする人のケアセミナー in 鎌倉」は、鎌倉近郊でケアに従事している人たちを中心に実行委員会を組織し、約一年かけて取り組んだ。今回特筆すべきは、共催に鎌倉市が加わったことである。これまでに取り組んできた20回に亘るセミナーにおいて行政が協働するのは初めてのことだった。テーマやプログラム、講師並びに登壇者選びなど、実行委員会の意見を優先し内容を構成し、鎌倉市の意向も確認、さらにスミセイの同意も必要で、少々面倒臭い取り組みとなったが、結果的には鎌倉市が加わらなければ今回の成功はなかっただろう。

記念講演の講師に鎌倉市在住の養老孟司さん、キーノートスピーチに播磨さんを迎え、200人を越える参加者も大満足のセミナーとなった。

今回の20回を節目に、18年に亘り住友生命福祉文化財団と取り組んできた「ケアする人のケアセミナー」は終了することとした。

- ・主催 一般財団法人住友生命福祉文化財団、一般財団法人たんぼぼの家
- ・共催 鎌倉市
- ・運営主体 ケアする人のケアセミナー in 鎌倉実行委員会
- ・テーマ ケアリング・ソサエティ ～孤立と自律～
- ・会期 2024年3月17日(土)
- ・会場 鎌倉女子大学二階堂学舎

### 2) こどもみらいフォーラムおおさか

住友生命福祉文化財団との協働事業として、今年度は新たに「こどもみらいフォーラムおおさか」を実施した。次代を担う子どもたち及び子どもたちの今とこれからをつくるために活動しているNPOを応援するためのフォーラムである。子どもたちに必要なものが何かを考え、その必要なものを実現するための行動と支援と連携が生まれるきっかけとなることをめざした。記念講演には、ゴリラ研究で有名な人類学者、山極寿一さんを迎え、その講演を受けて、ヤングケアラーの当事者と支援者の視点から「こどもに寄り添うケアのある社会」の実現に向けてパネルディスカッションした。



日頃から子どもたちのケアに携わる大阪府内の6団体とともに実行委員会を構成し、プログラム特に分科会の内容について主催者とともに検討したことで、地に足の着いたフォーラムとなった。こどもを取り巻く社会課題を他人事ではなく自分事としてとらえるきっかけとなったと確信している。

- ・主催 一般財団法人住友生命福祉文化財団、読売新聞大阪本社、一般財団法人たんぽぽの家
- ・会期 11月26日(日)
- ・会場 ナレッジキャピタル タワーB
- ・プログラム ①記念講演/山極 壽一(人類学者)  
②パネルディスカッション 持田 京子(ケアラーアクションネットワーク協会代表理事)  
町 亜聖(フリーアナウンサー)  
コーディネーター 濱島 淑恵(ふうせんの会代表)
- ③分科会

### 3)「なら介護の日2023」への参画

厚生労働省が、11月11日を「介護の日」と制定したことを受けて、県内22の医療、福祉、介護に関わる団体で実行委員会を構成し、毎秋実施している啓発イベントである。家庭や施設などで介護をしている人たちを元気づけるとともに、介護を支えるコミュニティの力を育むことをめざしている。

たんぽぽの家はイベント部会の部会長として、子から親へ愛を贈る「親守唄・歌会」他、ステージ全般を担っている。

- ・会期 11月11日(土)
- ・会場 なら100年会館・中ホール及びロビー
- ・内容 ①奈良介護大賞の表彰  
②子から親へ愛を贈る「親守唄・歌会」  
③記念講演  
中村 伸一(福井県おおい町名田庄診療所 医師)

※会場ロビーで専門家による相談コーナー、福祉機器の展示、介護食の試食等を実施。

# わたぼうしプロジェクト

1975年に古都奈良に誕生し、今年48年目を迎えるロングランプロジェクトである。障害のある人たちの歌や語りを通して、平和と友好に満ちた国際社会、夢と希望にあふれた地域社会をめざして活動している。

## 1) 第48回わたぼうし音楽祭

新型コロナの影響でオンライン開催が続いていたが、4年振りにホールでの対面開催が実現した。ホームグラウンドとして長きに亘り開催してきた奈良県文化会館が改修工事のため使用できず、やまと郡山城ホール・大ホールに会場を移し開催した。

入選作品8点の発表に加え、ゲストに大和郡山市を拠点とする「ひかり園音楽隊」、たんぽぽの家での活動をきっかけに結成されたダウン症の子どもたちのダンスユニット「Shamaim Art (シャマイム・アート)」、また、韓国からも障害のある人を映像を通してサポートする「メディア・ピーリング」を迎え、バラエティに富んだステージを構成した。

4年振りの対面開催ということで、特に心配したのは集客とプログラム広告収入だった。プログラム広告においては、オンライン開催時も継続して「プログラム広告に代わる協賛金」と位置づけ、スポンサーに協力要請していたので目標金額をクリアすることができた。また、集客については、大和郡山市の「ひかり園音楽隊」をゲストに迎え、彼らの応援団が駆け付けてくれたことで何とか会場を埋めることができた。

わたぼうし大賞には、滋賀県近江八幡市の奥田美里さんが作詩・作曲した「僕らが諦めたのは」、文武科学大臣賞には、兵庫県神戸市の鈴木美緒さんが作詩・作曲した「ちいさいわたしへ」がそれぞれ選ばれた。

- ・会期 8月6日(日)
- ・会場 やまと郡山城ホール・大ホール
- ・入場料 一般2,500円 高校生以下1,500円 愛のシート1,500円

## 2) わたぼうしコンサート&語り部

「わたぼうし音楽祭」で生まれた歌は、「わたぼうしコンサート」として旅立ち、日本各地で歌われ、多くの人たちと心を響かせ合っている。ここしばらくは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためほとんどの公演が中止または延期となったが、少しずつ回復の兆しを見せつつある。

- ・4月14日(金) ハートフルコンサート in やまと郡山城レセプションホール(奈良)
- ・4月22日(土) 高島屋 語りコンサート(大阪)
- ・5月3日(水・祝) 中之島まつり(大阪)
- ・5月27日(土) Good Job! スーパーマーケット(奈良)
- ・8月27日(日) わたぼうしコンサートながさき2023(長崎)

- 8月27日(日) わたぼうし宮崎コンサート(宮崎)
- 10月1日(日) 千曲荘病院まつり(長野)
- 10月8日(日) 岩井菜穂美を偲ぶコンサート(福岡)
- 11月1日(水) 2日(木) 田内千鶴子生誕111周年記念式典(韓国ソウル-木浦)
- 12月6日(水) 千曲荘コンサート(長野)
- 12月21日(木) 国保中央病院 Xmas コンサート(奈良)
- 2月11日(日) 能智星悟を偲ぶコンサート(愛媛)
- 2月25日(日) VIP 大阪日韓交流会コンサート(大阪)
- 3月31日(日) 佐保川桜まつりコンサート(奈良)